

# 絆

158号



自由民主党

衆議院議員

## 桜田よしたか

日本！この国を強い国に！  
～国・地域・家族を守る～



### 平成25年 あけましておめでとうございます！

**東日本大震災** 被災地復興を日本再興のシンボルに！

憂うべき現状…がれき処理 住宅建設 汚染処理は？

東日本大震災から1年半が過ぎ、やがて丸2年を迎えようとしています。〈みちのく〉に2度目の厳しい冬がやってきましたが、被災地の復興は思うようには進んでいません。「日暮れて道遠し」の感が深まるばかりです。

津波に襲われた海岸にそびえるガレキの山。膨大なガレキが仮置きされたまま、行き場を失っているのです。処理率はわずか25%。片付いたゴミの量は4分の1にすぎません。このままだと「2014年3月までに処理完了」という政府の目標達成は危うい限りです。仮設焼却炉の整備が急務です。他県に運んで処分する広域処理も進めなければなりません。大震災や津波で家を失ったり、

#### 〈東日本大震災の被害と復興状況〉

東電福島原発事故の放射能汚染から逃れるため避難生活を続けている人の数は32万4858人（11月1日現在、復興庁調べ）。仮設住宅など避難者を受け入れる復興住宅の建設も遅れが目立ちます。岩手、宮城、福島の3県を中心に約2万8000戸を計画中ですが、移転地が見つからず、用地を確保できたのは1割にすぎません。高台などへの集団移転事業もこれからスタートします。新しい町、新しい村、新しいコミュニティーを造る前例のない大事業なのに、先立つお金も土木技術者などの人出も足りません。政府の復興予算はあるのに、必要なお金が必要な事業に行きわたっていないからです。

死者	1万5873人（11.7現在）
行方不明	2768人（同）
避難者計	32万4858人（11.1現在）
復興住宅計画	約2万8000戸（うち完成または建設めど約3100戸）
農地復旧	7240 <small>ヘクタール</small> （浸水農地の35%）
水揚げ量（5～7月）	6万464 <small>トン</small> （2010年同時期比58%）
集団移転計画数	306地区（うち決定数182地区）

原発事故の影響で福島県では16万人が県内外に避難しました。

しかし、放射能除染がはかどらず、時間の経過とともに、わが家への帰還をあきらめる避難者が増えています。

放射能による環境汚染は、わたしたちが住む柏、我孫子など東葛地域にも深刻な影響をもたらしました。学校や幼稚園、公園などに放射線量が高いホットスポットが出現し、各自治体が除染作業に追われています。しかし、濃縮された放射性廃棄物を最終的にどこに持っていくのか——という肝心の問題は解決のメドが立っていません。汚染されたゴミ焼却灰は「県営手賀沼終末処理場」（我孫子、印西市）内に一時保管施設を作ることで一応の決着はみたまもの（両市はいまだに反発しています）、国の責任で県内に新設するはずの最終処分場が候補地すら明らかになっていません。

**お金があるのに使えない！ 官僚はやりたい放題？**（目に余る復興予算の転用、未消化）

時間がたつにつれ、被災地ではいらだちや失望感が広がっています。大震災発生から1年半を機に読売新聞が実施したアンケート調査によりますと、「震災前に暮らしていた地域に戻りたい」と答えた人が福島ではとうとう5割を切っ

てしまいました。岩手、宮城は 35%です。住みなれた街、懐かしい家が家に「帰りたくても帰れない」人が増えつづけている背景には、復興計画の内容への不信、遅れに対する不満があります。私は「被災地を日本再生のシンボルにしたい」と考えている一人ですが、現状はそれどころではありません。このままでは東北地方からの人口流出が進み、産業はさびれ、山河は荒れ果ててしまいます。

この間、「政治」はいったい何をやってきたのでしょうか？ 政府は被災地のニーズに合った政策を打ち出し、着実に実施してきたのでしょうか？政府は被災地のニーズに合った政策を打ち出し、着実に実施してきたのでしょうか？先の国会で復興予算のあきれた使い道が明るみに出ました。自民党議員の追及で財務省が明かした復興予算転用の実態とは—

▽反捕鯨団体シー・シェパード対策費  
(農林水産省)

▽埼玉県などの刑務所での職業訓練費  
(法務省)

▽岐阜県のコンタクトレンズ工場などへの  
補助金 (経済産業省)

これが「復興関連事業」と言えるので

◇復興予算→東日本大震災からの復旧・復興に使う予算。2011年度第1次補正予算から計上され、2015年度までに約19兆円程度を支出する見込み。財源として、2013年1月から25年間、所得税額の2.1%分を上乗せするほか、2014年6月から10年間、住民税に年1,000円を上乗せするなどの「復興増税」で約10.5兆円を確保する。

でしょうか。官僚たちは理屈にもならない理屈をこねていますが、だれが見ても震災に便乗した悪乗り。肝心の復興が大幅に遅れているというのに、こんないい加減な予算の使われ方が許されるはずがありません。

野田首相は「福島復興なくして日本の復興なし」とミエを切りましたが、霞が関の官僚たちは“首相の本気度”をとっくに見抜いているようです。〈復興予算は被災地のために使う〉という基本方針（当たり前です！）に従わせることこそ真の政治主導。民主党政権は各省庁に大臣、副大臣、政務官の「政務三役」を配しているのに、官僚になめられては話になりません。

復興予算が大震災と関係ないところでムダづかいされている一方、被災地では予算執行が遅れ、十分な支援が行き渡っていません。11年度に計上した復興予算15兆円のうち、年度内に使われたのはたったの6割。会計検査院の決算検査報告書で予算未消化の実態が浮かび上がりました。予算メニューとニーズのミスマッチが現場で起きているのです。被災者が本当に必要としているものは何か——これまた、真の意味での「事業仕分け」が必要ではないでしょうか。

## 今こそ“大風呂敷”を広げ、現状を打開しよう

### —関東大震災からの復興 後藤新平に学ぼう

寝食を忘れて苦闘する東北3県の各役場の職員。ふるさと再建を祈る被災者たち。それでも思うように進まない復興事業・私は、立ちふさがる壁をぶち破るには、関東大震災の復興を強力にリードした後藤新平の“蛮勇”に学ぶべきだと思っています。3.11以降、その実績が改めて注目されています。

後藤新平 (1857-1929)

南満州鉄道初代総裁、外相などを歴任し、関東大震災直前まで東京市長を務めた。震災後は内相兼帝都復興院総裁として東京の帝都復興計画を立案した。計画の規模の大きさから「大風呂敷」とあだ名された。



1923年9月1日、関東大震災に襲われた東京は首都機能の大半を失いました。後藤は震災翌日、山本権兵衛内閣の内相に就任、その日のうちに①遷都は行わない②復興費に30億円かける③欧米の最新の都市計画を適用する—などの基本計画をまとめました。そして首相直属機関の帝都復興院を発足させ、自ら総裁に就任、復興に関する権限を集中して、7か年の帝都復興計画を作成しました。焼失面積を上回る3600㏊という壮大な規模の区画整理事業。がれきの中で産声を上げた復興計画は、現在の東京の骨格を形づくったとされています。今も都心を走る「靖国通り」や「晴海通り」、川沿いに造られた隅田公園（東京都台東区・墨田区）、海沿いの山下公園（横浜市）は復興事業の成果で



す。ただ、スケールが大きすぎました。国家予算が13億～15億円の時代。それが復興に30億円を投じるというのですから、“大風呂敷”のあだ名を頂戴したのはある意味、当然です。逆に言うと、これくらい思い切った手を打たなければ、短期間で東京復興はなかったかもしれません。

後藤新平から学ぶべき知恵は何か——骨太の計画、権限の集中、お金と人の一挙投入です。もう一つ付け加えれば、多少の批判はあっても実現に向かって突き進む「突破力」ではないでしょうか。

先人にならって私も東日本大震災と東電福島原発事故からの復興策を提案したいと思います。

## ◆集団移転事業～ゴルフ場跡地に新しい街を

親類や知人の少ない県内の市町村、見たこともない他県で避難生活を送る人たちは、いま切実に“安住の地”を求めています。しかし、復興住宅の建設や高台への集団移転事業は進捗していません。用地取得がネックになっているからです。

そこで考えたのですが、地震でコースが崩落したり、放射能汚染の風評被害で閑古鳥が鳴いているゴルフ場に“新しい街を造る”というアイデアはどうでしょう。

東北3県には3.11の後、閉鎖に追い込まれたゴルフ場がいくつもあると聞いています。ゴルフ場ならアクセス道路など最低限のインフラは整備されているし、手つかずの山林に比べれば宅地造成も容易です。海辺から離れているところなら津波の心配もありません。

ゴルフ場があった高台を区画整理し、復興予算で低家賃の住宅を建設するのです。集落ごと移転すれば、昔なじみの人たちの暮らしが戻ってきます。生活が安定し収入の道が確保できたら、低価格で優先的に分譲する…こうしたプロセスを特別立法で保証しておけば、新しいコミュニティーがいくつも誕生するのではないのでしょうか。

## ◆ホットスポットの悩み～指定廃棄物最終処分場の場所選定

先日、自宅近くの団地で地域住民が除染作業を手伝っている姿を見かけました。原発事故から1年半以上経過したのに、ホットスポットと呼ばれたエリアでは、まだ放射能汚染の影響が残っているのです。

柏、流山、松戸市と印西地区環境整備事業組合（印西、白井市、栄町）が抱えるゴミ焼却灰の一時保管施設を「県営手賀沼終末処理場」内に建設することを森田知事が決定したのが2012年5月。指定廃棄物問題の解決に向けて一定の道筋がついたと思われました。しかし、工程表では9月中旬に国が責任をもって決めるはずだった最終処分場の場所選定はのびのびになっています。

国有地か県有地か候補になりそうですが、指定廃棄物が発生している柏、流山、千葉市など6市は住宅密集地が多く、最終処分場に適した場所はあまりありません。かといって、6市以外に新設すれば、地元の大きな反発が予想されます。

近隣で同じ問題を抱える栃木県では矢板市に、茨城県では高萩市に打診がありましたが、市当局にとっても市民にとっても寝耳に水。猛烈な反対コールが湧きあがっています。一番大事なのは地域住民の理解と協力です。しかし、簡単に地元の納得が得られるでしょうか。〈あちらを立てればこちらが立たず〉で、事態が泥沼化する恐れが十分あります。

それよりも、思い切って最終処分場を福島第一原子力発電所の敷地内か近接する警戒区域内に建設してはどうでしょう。放射線レベルが高く、人の立ち入りが徹しく制限されている場所に埋設すれば、関東・東北5県の指定廃棄物問題は一挙に解決します。「地域エゴ」の批判はあるかもしれませんが、事態を打開するためには思い切った施策を検討する必要があります。

### 指定廃棄物

放射性セシウム濃度が1キログラムあたり8000ベクレル超の焼却灰や下水汚泥など。放射能で汚染されたごみの焼却や下水処理の過程で、セシウムが濃縮される。発生した都道府県内で国が最終処分する。廃棄物はコンテナに入れられ、二重のコンクリート壁で遮蔽して埋め立てられる。



## 被災地へメッセージを発信つづけよう

### ～「忘れないこと」が最高の励まし～

東日本大震災の復興財源を確保するための「復興特別所得税」の徴収がこの1月から始まります。

復興特別所得税は、2013年1月から2037年末までも25年間、所得税額に対して一律2.1%が上乗せされる制度です。例えば、給与の所得税額が年10万円の会社員家庭では次のようになります。

$10万 \times 0.021 = 2100$  で復興特別所得税は2100円。本来の所得税と合わせた10万2100円が天引きされることとなります。この税は預金の利息や株の配当金にもかかってきます。これまでは所得税15%、住民税5%の計20%が課税されていましたが、新年からは〔所得税15% $\times$ 0.021=復興特別税0.315%〕で計20.315%が差し引かれます。

家計への負担はどうなるでしょうか。ある試算（40歳の会社員夫、妻、子供2人の4人世帯）によりますと、年収300万円の世帯で年600円、800万円世帯で年8000円ほどの負担増になります。

年収が多いほど負担が大きくなる仕組みですが、私はこの増税はやむを得ない社会的コストと考えています。被災者のご苦勞を思えば、負担増に黙って耐えるべきではないでしょうか。このお金が必要とするところに、適切に行き渡るかどうか、監視を怠ってはなりません。

〈のど元過ぎれば熱さを忘れる〉で、私たちは日常の忙しさにまぎれ、被災地の復興を忘れがちです。被災地入りするボランティアも少なくなっているそうです。仕方のないことですが、せめて一日一回ぐらいいは3.11を思い出し、「忘れない」というメッセージをそれぞれの立場から発信しつづけること——それが被災者にとって何よりの励ましになるのではないのでしょうか。



第111回平成目安塾新春セミナー開催のお知らせ！

【日付】平成25年2月1日（金）

【時間】受付開始17時

セミナー開式18時 懇親会19時10分～

【場所】マリアチャペルマリベール柏

柏市柏233-1 TEL04-7163-1111

【連絡先】桜田事務所 野口

【ご連絡事項】

絆156号では、安倍自民党総裁がセミナー講師と記載しておりましたが、急遽都合により来柏が難しくなりました。皆様には謹んでお詫び申し上げます。

## 党員募集のお知らせ

【入党手続き】桜田事務所までご連絡ください

【自民党員になると】2年間継続した党員は、自民党総裁選挙の有権者となります。また桜田義孝事務所より活動報告や行事案内をお送り致します。

【党員種類】一般党員 年間4,000円 家族党員 年間2,000円

### 桜田義孝柏事務所

〒277-0814 柏市正連寺374 TEL:04-7132-0881 FAX:04-7132-6456

### 桜田義孝国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館1117号室

TEL:03-3508-7381 FAX:03-3508-3501

ホームページ <http://www.sakurada-yoshitaka.com/>

メールアドレス [web@sakurada-yoshitaka.com](mailto:web@sakurada-yoshitaka.com)

Twitter (ツイッター) <http://twitter.com/ysakurada>